



信州発 ⇒

“ずく”出して、世界への
はじめの一步 イマ・ココから

2018
秋号

No.57
2018.10.1

JICA 駒ヶ根



国際協力

訓練所開設40周年に向けて

2017年、駒ヶ根訓練所を卒業して海外での協力活動に飛び込んでいった青年・シニアが2万人を超え、2019年には訓練所開設40周年を迎えます。この節目を、数字の区切りに終わらせず、駒ヶ根訓練所が「国民参加事業」である青年海外協力隊事業の価値を体現する拠点として、「人材育成」と「地域活性化」にいつそう貢献する機会としたいと願っています。

協力隊事業発足当時、海外での奉仕活動を希望する若者を「青年海外協力隊員」として送り出すためには、「派遣前訓練」を通じた「語学力や異文化適応能力の習得」は欠かせないもので、半世紀が経過した今もその重要性は変わっていません。むしろ、核家族化や高齢化で地域活動が衰退してきた現在、途上国での協力活動に取り組む前提条件として、コミュニケーション力や利害調整能力の向上がますます重要になってきています。一方、「訓練所があることは知っているが行ったことは無い、誰が何をしているか知らない」という市民の声も多く聞きます。

そこで、今年度「協力活動(地域実践)」というプログラムを開始しました。商店街活性化、引きこもり・ニート支援、在住外国人支援、障害者スポーツ、小中学校や子ども交流センター

など多岐にわたる団体に訓練生を受入れていただき、「コミュニケーションを通じて信頼を築き共に実行する力」を養うことを目的としています。また、受け入れ先の方々には訓練や協力隊事業について、訓練生には地域の課題や市民の取り組みについて、互いに理解を深めることも期待しています。訓練生たちの提案が市民の気づきとなることもありますし、お膳立てされた講義や仲間同士のワークショップでは得られない学びを訓練生たちは得ているようです。

今、協力隊事業は変革の真っ最中です。青年海外協力隊の理念をより堅固なものとして復興させるため、年齢による青年とシニアの区分を撤廃し、「JICAボランティア」という総称を「JICA海外協力隊」に変更します。駒ヶ根訓練所も、「協力活動(地域実践)」を始めとして新たな価値を創造するため、地域との連携の強化を必要としています。もっと多くの市民が訓練所に来てくれるような工夫も考えていきたいです。今回、記念すべき第25回目となる「みなこいワールドフェスタ(協力隊週間)」での、市民の皆さんとの交流を楽しみにしています。

駒ヶ根青年海外協力隊訓練所 所長 清水勉



第25回 みなこいワールドフェスタ

今年で25回目を迎える「みなこいワールドフェスタ」では、JICA訓練生・帰国ボランティア・外国籍住民の方々・地域のボランティアスタッフと一緒に、地域の皆さんに「参加・体験・感じてもらい」、この地域に居ながらにして国際文化に出会える機会とします。協力隊週間では、伊南4市町村各地でのイベントを開き、地域と協力隊との交流を深め、最終日には「こまがね国際広場」を開催しますので、ご参加ください。

名称	開催日	時間	会場等	申込
地球のステージ	10月20日(土)	19:00~	JICA駒ヶ根訓練所	要申込
ホセさんの地球の料理教室	10月21日(日)	10:00~	飯島町文化館調理実習室	要申込
映画上映会「世界で一番美しい村」	10月21日(日)	15:00~	飯島町文化会館小ホール	要申込
映画上映会「クロスロード」	10月24日(水)	19:00~	宮田村民会館大ホール	申込不要
国際広場前夜祭	10月27日(土)	19:00~	こまがね市民活動支援センター	要申込
こまがね国際広場	10月28日(日)	10:00~15:00	駒ヶ根駅前 広小路・銀座商店街	



週間に赤穂小学校、中川中学校でJICA国際協力出前講座を開催します。

お問合せ・申し込みは **要申込** 駒ヶ根協力隊を育てる会事務局 83-2111(内線244) メール kizai@city.komagane.nagano.jp



キルギス語かるた

きたワークショップを行いました。4年1組には、環境教育の訓練生3名が訪問し、子供たちに環境教育のワークショップを行いました。ペットボトルとティッシュペーパーを利用して簡単なる過装置を作り、池から取ってきた濁った水を入れて、きれいな水がろ過される様子を観察しました。この訓練生たちとの交流が、子供たちにとって世界への入り口になって欲しいと願っています。

協力活動（地域実践）の訓練の一環として、訓練生の皆さんは、駒ヶ根市と飯島町の学校で交流を行いました。

駒ヶ根訓練所に一番近い赤穂南小学校には、18名の訓練生が訪問し、4年生と5年生の皆さんと交流しました。

訓練生たちは自己紹介をして、これから派遣される国と自らの活動の紹介を行いました。地図を使ったり、パワーポイントで写真を写しながら説明すると、子供たちは目をキラキラさせて沢山の質問をしていました。その後は、小さなグループに分かれ、訓練生たちが考えて



簡易ろ過装置

今回は、現在JOCA グローバル人材育成課&国際協力課にお勤めのOBの方です！



JOCA グローバル人材育成課&国際協力課

かとう しゅういち
加藤 秀一さん

平成9年度1次隊
派遣国：ハンガリー
職種：体育



Q1：協力隊員となつたきっかけは？

体育大学を出て、地元・福島県の高校教員を目指しましたが、県の教員採用試験に当たらず（6回受けて、6回不合格）、途方に暮れておりました。そんなある日、ふと「長い人生、1年か2年くらい、海外に住んでもいいんじゃないか。若いうちに」と思ってしまった。直後、どこかの駅で、「青年海外協力隊の募集ポスター」に出会います。ここからは、速かった。募集説明会に行き、直近の募集に応募し、受験。なんと、1回で合格させていただきました！感謝です。

Q2：派遣国での活動や生活はいかがでしたか？

ハンガリーは準先進国と言ってもいい国でしたが、生活でも仕事でもビックリを経験しました。

- *男性はみんな、女性や高齢者に優しい、「スーパー・レディファースト」（カッコイイ!）
- *近隣の国への旅行では、大学の寮に泊まり、持参した食料を食べる。お土産は買わない!
- *小学校4年生の子が、5年生になれなかった！「落第制度」でも、生徒と教師の仲はイイ。



小学校低学年・中学年の女子の体育は、レオタードですが、器械体操が盛んな国

Q3：現在のお仕事について教えてください。

主に、協力隊に行く人

（参加者）、行きたい人（欲求層）、興味ある人（関心層）へのシゴトです。

- * JICA ボランティアでも短期派遣等、3～4日間の派遣前研修のプログラムを構築、実施します。
- * 訓練所を活用した、高校生や大学生向けの合宿型人材育成プログラムを構築、実施します。
- * 中学生・高校生対象の、途上国への海外研修プログラムをトータルコーディネートします。
- * 協力隊経験者ならではの教材・コンテンツを活用した、人材育成プログラムを開発します。



高校生向け合宿型プログラムでの講演

Q4：協力隊の経験は今どう活かしていますか？

青年海外協力隊時代を振り返ると、実は「反省」ばかりでした。しかし、その後民間からの派遣でペルーで野球を教えたり、JICA ボランティアのコーディネーター（調整員）としてニカラグアで働く経験をすることで、「蟻の眼」と「鷹の眼」の両眼が培われたのでは、と思います。つまり、ハンガリーでの大いなる「反省」が、今の自分をつくってくれたのかも知れません。

募集
開始!

JICA海外協力隊!

10月1日(月)～11月1日(木)



現地の人々とともに生活しながら、自分の技術や経験を開発途上国のために生かしてみませんか?
応募期間は2018年10月1日(月)から11月1日(木)の正午までです。
詳しくはJICAホームページ(<https://www.jica.go.jp/volunteer/>)をご覧ください



長野県内で募集説明会を開催します!



10月 4日(木) 長野市生涯学習センター (TOIGO) 第1学習室
19:00～21:00

10月 9日(火) 松本市中央公民館・Mウィング文化センター 会議室3-1
19:00～21:00

10月16日(火) 佐久市佐久平交流センター 第3会議室
19:00～21:00

10月21日(日) 駒ヶ根総合文化センター 2階視聴覚室(図書館上)
13:30～15:30

説明会の後に訓練所見学ツアー(送迎付き)も用意しています。

会場となる駒ヶ根総合文化センターでは、10月17日(水)～25日(木)に市立博物館の展示スペースでJICA海外協力隊パネル展を開催しています。世界で活躍する長野県出身者の姿をぜひご覧ください。

※どの会場も予約不要、参加費無料です!

イベント・レポート Event Report



7/25

JICA海外協力隊の帰国報告会

7月25日(水)、2年間の活動を終えたJICA海外協力隊の帰国報告会を駒ヶ根訓練所で開催しました。3名の協力隊経験者の報告会に、訓練生や一般市民の方など総勢79名が参加しました。



※写真左から

宮下智織さん(パラグアイ派遣、小学校教諭)

大西哲理さん(ジャマイカ派遣、学芸員)

小平夢子さん(ザンビア派遣、体育)

宮下さんは、街にたくさんのゴミが散乱しているのを目にして環境教育に力を入れようと、子どもたちと一緒に行った「ゴミ箱の設置」や「花壇の整備」を通じて、子どもたちに「ゴミを分別すること」や「ポイ捨てをしないこと」を伝えてきました。

大西さんは、配属先の美術館で日本の武道の展示を企画し実現しました。また、ゲームやアニメを集客に活用するなど美術館運営の工夫を同僚に伝えてきました。

小平さんは、配属先の教員養成学校で生徒に英語で指導する難しさを乗り越えながら、道具を使わなくてもできる運動を教えました。「運動会」では生徒が自主的に組体操を発表してくれたそうです。近い将来、小平さんの教え子がザンビア各地で組体操を広げてくれるのが楽しみです。

次回の帰国報告会は、9月に帰国したばかりの長野県出身隊員2名を招いて10月18日(木)18時45分から駒ヶ根青年海外協力隊訓練所で開催予定です。一人は野沢温泉村出身の方(カメルーン派遣、幼児教育)、もう一人は千曲市出身の方(ラオス派遣、助産師)であり、それぞれ青年海外協力隊員として2年間活動してきました。

海外に興味のある方、国際協力や海外協力隊に関心のある方、OBの方々ぜひお越しください。

草の根技術協力事業

「フィリピン国農業省関係者が 長野県の農産物流通を学ぶ」

フィリピン農業省のフードバリューチェーン担当者や野菜農家11名が南牧村の野菜流通の仕組みについて研修し、レタス畑で収穫～梱包作業を体験しました。



早朝のレタス収穫梱包作業体験

これは、JICA 草の根技術協力事業「安全野菜生産販売技術改善プロジェクト」(提案自治体:南牧村 実施団体:(公社)国際農業者交流協

会)の本邦研修で、標高1000mの高冷地で栽培されているハクサイ、キャベツ、レタスなどが収穫後すぐに梱包され、予冷施設を経て全国に出荷される様子を見学したものです。



流通センター

フィリピン農業省農業ビジネス・経営局長のクリストファー・ビクーナ・モラレス氏は「生産者が自ら箱詰めして予冷施設で直ちに冷却し、収穫から消費地まで新鮮さを保持できる仕組みに驚いた。技術を少しでもフィリピンに取り入れたい」と日本の「農産物品質の保持・流通」について感想を述べました。

この事業は2019年度まで続き、フィリピン国の農産物生産と流通改善を目指します。

JICA長野デスクの窓から♪

●皆さまズドラストヴィチェ!
長野デスク竹内です。

今号は長野日本大学小学校の国際理解教育、グローバルデーについてご紹介します。

長野日本大学小学校では、JICAボランティア経験者8名を講師としたフォトランゲージ(講師が話す言語や民族衣装、そして4枚の写真からグループ内で想像力を膨らませてどこの国なのか考える)を6月に高学年の生徒に向けて実施。そして、夏休み中にそれぞれ担当の国について調べた後、9月に低学年の生徒に向けて発表をするという企画を3年前から行っています。



今年度の6年生は3回目ということもあり、各国の情報や言語、フォトランゲージで使った写真を使い、堂々とプレゼンしていました。

この企画を通して、世界のことや国際協力について、また自分たちが住む日本や長野についても興味を持って勉強していくきっかけになれば嬉しいです!



国際理解教育として何かしてみたいけど...と思われている方、是非一度長野デスクまでご連絡ください。“Think Globally, Act Locally”一緒に出来ることを考えていきましょう!



新スタッフ



庶務
よね やま み か
米山美香

4月から庶務として勤務しております米山美香です。
フルーツのまち 松川育ちの米粒好きです。
夏の花火大会と冬のスキー以外は基本ひきこもりに近いインドア派です。
皆様どうぞよろしくお願ひいたします。



Hola! 私は今ブエノスアイレスからバスで約一時間のところにある、日系人移住地で日本語教師として活動しています。

日系人と聞いて、すぐに「戦前戦後に外国へ移住した日本人やその子孫」と思い浮かぶ人は少ないのではないのでしょうか。私もその一人です。幼い頃、顔は日本人なのに名前は横文字で英語を話す役者を見て、一体どういうこと?とっていました。JICAに出会うまでは特に気にしていなかった日系社会。「もう一つの日本へ」という

日系社会ボランティアのパンフレットを見た時は益々興味が湧き、現在私はここにいます。

私の学校の生徒は主に小学生で、無邪気な子供達の笑顔はとても可愛いく、いつも元気な子供達にパワーを分け与えてもらっています。



日本文化を紹介する様子

子供達はスペイン語を話すことが多いですが、学校の中は全て日本語で、校内には日本の絵本や漫画も多く、運動会や学芸会などの行事もあり、校内にいるとアルゼンチンであることを忘れてしまいそうになります。

残りの任期、生徒達にもっと日本を好きに、日本語に興味を持ってもらえるように活動していきたいです。



今の担任クラスでの一コマ

今に名前が横文字で英語を話す役者を見て、一体どういうこと?とっていました。JICAに出会うまでは特に気にしていなかった日系社会。「もう一つの日本へ」という



アルゼンチン生まれのキャラクター「マファルダ」

帰国したJICAボランティアの方

2年間の活動
お疲れ様でした!!



2016(平成28)年度1次隊

こたいら ゆめこ
小平 夢子さん
(佐久市)

- 派遣国：ザンビア共和国
- 職種：体育



学生との集合写真

南部にある教員養成校が私の配属先でした。常に同僚の先生と一緒に授業に赴き、教員になる学生たちへ向

も過しやすい国でした。また、ザンビアの人々の気質は綺麗好きの面や恥ずかしがりやの面があり日本人と似ている部分が多く、親近感を感じる2年間でもありました。

南部アフリカに位置し8つの国に囲まれた内陸国であるザンビア共和国は平均標高が高く、年間通しての平均気温が約20℃であることでとて

けて体育の授業の実施方法を教えました。十分な道具がなくても実施できる種目を教えることや、体育の授業は心身の成長のために必要な科目であることを実感してもらうために、UNDOKAI(運動会)を行いました。UNDOKAI当日、学生たちは一生懸命取り組む姿を私たちにを見せてくれました。また、何人かの学生から、自分が教員になったらぜひUNDOKAIを実施して子どもたちに運動の楽しさを伝えたいという言葉を聞けたことは本当に嬉しく感じました。

体育が子どもたちの心と体を育てる科目であり続けることを願っています。



マット運動の指導



UNDOKAI 組体操タワー

受講者受付中 国際理解教育指導者セミナー

「信州発グローバル教育～参加型で実践！国際理解をもっと身近に～」

国際理解の授業をこれからやりたい、やってはいるものをもっとブラッシュアップしたい、参加型・協働型の手法をどう取り入れようか、とお考えの先生方にご参加いただきたいセミナーです。今年も昨年度と同様、講師としてNIED・国際理解教育センター伊沢玲子氏にお出でいただきます。

今年も長野県教育委員会にご共催いただき、会場は総合教育センターです。

■日 程：11/10(土) 開始：10:00 終了：17:00頃

■会 場：長野県総合教育センター

■対 象：長野県内で国際理解の授業を実践している、または実践する予定の小・中学校、高校の教員

■参加費：無料

■内 容：①自己紹介・アイスブレーキング、②国際理解ワークショップ体験、③参加者間の実践報告・共有、④学習プログラムづくり、参加型の学習プログラムについての意見交換、⑤振り返りと今後の実践について。

お問い合わせ・お申込みはJICA駒ヶ根 担当：岡田まで

Information

派遣前訓練公開講座

参加は無料ですが、事前にお申込が必要です。

▶ 局長講話

内容：JICAボランティア事業の理念と目標
 10月15日(月) 15:10～16:00
 定員：10名 講師：青年海外協力隊事務局 局長

▶ 地球のステージ(コンサート)

内容：途上国で巡り合った人々との交流を映像と音楽そして語りで表現する「映像と音楽のシンクロ」ステージ。貧困生活の現状や紛争地域の子供たちの明るくたくましい姿などを映し出しながら、桑山氏自身の経験、ボランティア観を表現する。
 10月20日(土) 19:10～21:00
 定員：20名 講師：桑山紀彦氏(地球のステージ事務局)

▶ JICA事業概要

内容：JICAの目的・機構・歩み・現状などの事業概要
 10月22日(月) 16:10～17:00
 定員：10名 講師：青年海外協力隊事務局 職員

▶ 国際関係と日本の国際協力

内容：日本の援助の歴史、概略、現状を理解する。
 10月29日(月) 15:10～17:00
 定員：10名 講師：廣野良吉氏(成蹊大学 名誉教授)

※講師の都合等で実施日が変更になる場合がありますので、ホームページでご確認ください。
 ホームページ <https://www.jica.go.jp/komagane/event/index.html>

公開講座とは・・・JICAボランティアの派遣前訓練で実施している各種講座を一般の方にも公開しているものです。会場はすべて駒ヶ根青年海外協力隊訓練所です。

2018年度2次隊(7名)

長野県出身新ボランティア

行ってきます!!

青年海外協力隊



きしま ふみあき
木島 史暁さん(中野市) 派遣国：ウガンダ 職 種：食用作物・稲作栽培
 私が協力隊に参加した理由は、途上国に生まれただけで厳しい生活を強いられる、世界の不等等に疑問を抱いたからです。派遣先では、まず目の前の一人を救えるかに専念して活動しようと思っています。



たかはし あかね
高橋 茜さん(飯山市) 派遣国：ラオス 職 種：青少年活動
 高校生の時、教科書で難民救済についての記事を読み、国際協力の道を目指すようになりました。私は世界遺産であるルアンパブーン県へ、英語教師として派遣されます。生徒に実用的な英語を楽しく教えることが目標です!



いちかわ まさし
市川 将志さん(佐久市) 派遣国：ガーナ 職 種：PCインストラクター
 参加動機は「直接触れ合った人の役に立ちたい」。これまで通信会社で働いて来たが、人の役に立てている実感が得られなかった。今後は現地で自分の肌で直接触れて感じたことに対して全身全霊で取り組みたい。



こばやし ゆき
小林 由季さん(佐久市) 派遣国：エクアドル 職 種：野菜栽培
 仕事の関係で出会った方から協力隊に参加したという話を聞き、私も途上国で誰かの役に立つことが少しでもできたらと思い応募しました。エクアドルの農業高校で、現地の方と協力しながら頑張りたいと思います。



さくらい ひかる
桜井 洸さん(佐久市) 派遣国：モンゴル 職 種：バスケットボール
 モンゴルの第2都市であるダルハーン・オール県でバスケットボールに携わる予定です。国外旅行を含め海外渡航は初めてですがここでしかない経験を糧とし、人として成長できるように頑張ります!



さとう りょうへい
佐藤 良平さん(千曲市) 派遣国：サモア 職 種：獣医・衛生
 南太平洋に浮かぶサモア国で、獣医師として牛や豚などの家畜診療に携わります。自分自身もまだまだ経験が浅いですが、精一杯役に立てよう頑張る、現地の方々と共に成長して日本に帰ってきたいと思っています。

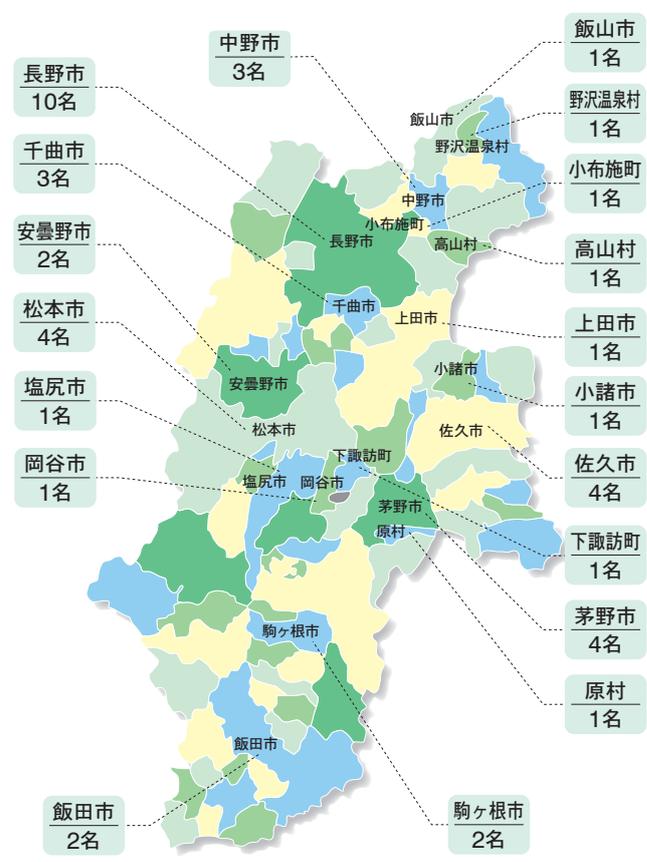


とみた けんたろう
富田 健太郎さん(小川村) 派遣国：エクアドル 職 種：土壌肥料
 通算10年以上の中南米での経験(パナマ、コロンビア、ブラジル、パラグアイ、エクアドル)。今度もエクアドルで、グアヤス県グアヤキル市にある大学で教鞭、研究教育(博士課程の院生指導も?)等に励めます。

派遣中JICAボランティア

(平成30年9月30日現在)

※各地方自治体へ表敬訪問をした人数=JICAボランティアの数としています。



長野県関係者 JICAボランティア派遣実績

平成30年8月31日現在

①青年海外協力隊員	派遣中 38名 累計 1017名	③日系社会青年ボランティア	派遣中 1名 累計 27名
②シニア海外ボランティア	派遣中 3名 累計 81名	④日系社会シニアボランティア	派遣中 0名 累計 5名

発行 独立行政法人 国際協力機構
 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
 TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336
 E-mail jicakjv@jica.go.jp
<https://www.jica.go.jp/komagane/index.html>

JICA駒ヶ根 facebook ページを開設!

<https://www.facebook.com/jicakomagane>

JICA駒ヶ根 メールマガジン

☑ 配信希望の方は jicakjv@jica.go.jp

までメールでご連絡ください!

JICA駒ヶ根では毎月1回メールマガジンを配信しています。県内の国際協力に関する動きやイベントなど、耳よりな情報をリアルタイムでお届けします。